

新理事長挨拶

この度、第6期（2006年－2009年）理事長を拝命いたしました。本学会は1991年に設立され、今年で15年目を迎えることとなりました。その前々年の、1989年の保健師助産師看護師養成所指定規則改正の折に、精神看護学がカリキュラム内で独立した柱として位置づけられなかったという危機感が、本学会設立の大きな契機となっていたかと思われまます。すなわち、精神看護学を看護学の中のひとつの学問領域としてきちんと位置づける必要があり、そのためにはぜひとも精神看護学の学会を立ち上げる必要があるという考えから、本学会が設立されました。当時そのような志から、稲岡文昭先生、南裕子先生、池田明子先生らが中心となり、学会設立準備委員会が立ち上げられ、1991年の学会設立へと至りました。私も当時、精神看護学の駆け出し教員として働いていた経緯から、本学会設立の趣旨に賛同し、設立発起人の一人として学会設立準備委員会のときより、本学会の活動に携わらせていただく機会を頂戴してきました。

この間、学会活動を通して、精神看護学に対し志を同じくする多くの方々と知り合い、横の連携を築く貴重な機会を頂戴してきました。設立大会のときには、発起人の一人として名を連ねてくださった中井久夫先生の「精神看護学にはまだ、何が精神看護であるのかという、その中身がな

い」という主旨のご発言が心に痛く響いたとともに、精神看護学に対する熱いエールとも受け止められました。毎年の学術集会や学会誌の編纂は、そうしたエールに対するひとつひとつの答えであったのではないかと思います。

精神看護学を巡る状況はめまぐるしく変化し、これまで以上に厳しく、精神看護の専門性やその社会的貢献が問われる時代に突入してきております。変化する時代の中で、社会からの要請に応え得るような精神看護の中身を精錬するとともに、どのような変化の中にあっても変わらない精神看護の本質を探究していくことが同時に求められていると思われまます。

本学会の設立と発展に寄与されてきた先輩諸氏の志を受け継ぎ、実践を重視し会員相互のコミュニケーションを大切にするという本学会ならではの良さを継承しつつ、次世代によりダイナミックな学会活動を受け継ぐことができるよう、さらなる基盤整備に努めてまいりたいと思います。会員の皆様のご協力をお願いするとともに、忌憚のないご意見をお待ちしております。

田 中 美恵子

第6期役員選挙結果

■第5期役員の任期満了に伴い、昨年度第6期役員の信任選挙が郵送方式にて行われました。その結果は2006年6月18日に開催された第16回総会で承認され、第6期役員が以下のように決定いたしました。

< 理事 >

池邊 敏子	東京慈恵会医科大学医学部看護学科
岡田 佳詠	聖路加看護大学大学院博士後期課程
荻野 雅	国際医療福祉大学、小田原保健医療学部看護学科
萱間 真美	聖路加看護大学
國生 拓子	広島大学大学院保健学研究科
榊 恵子	日本赤十字看護大学大学院博士後期課程
佐久間 えりか	北海道医療大学看護福祉学部
田中 美恵子	東京女子医科大学看護学部
永井 優子	自治医科大学看護学部
若狭 紅子	東京女子医科大学看護学部

< 監事 >

阿保 順子	北海道医療大学看護福祉学部
式守 晴子	東海大学健康科学部

< 理事長推薦理事 >

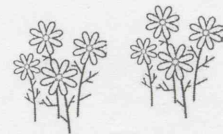
嵐 弘美	東京女子医科大学看護学部
小山 達也	東京女子医科大学看護学部

新理事役割分担

■平成18年9月16日に平成18年度第1回理事会が開催されました。第6期役員の役割は以下ようになりますので、ご報告いたします。

理事長	田中美恵子
副理事長	永井 優子
編集委員会	萱間 真美 (学会誌担当) 荻野 雅 (ニュースレター担当) 佐久間えりか、若狭 紅子 (HP、広報担当)
教育活動委員会	岡田 佳詠、國生 拓子、榊 恵子
庶務・会計	嵐 弘美、小山 達也、池邊 敏子

(順不同)



第16回 学術集会に参加して

静岡県立大学看護学部 助手 河内 俊二

2006年6月、第16回日本精神保健看護学会学術集会が自治医科大学にて開催されました。教員となって3年目の今年をはじめ、1日目午後から出席させていただきました。

私は「隔離及び身体拘束の一時的中断等の状況における判断について」というタイトルの演題発表を行いました。参加者からの鋭い指摘やディスカッションにより、さらに研究を深めることになり、新たな知見を得る機会になったと思います。ただ、参加者として、ポスターでじっくりと読ませていただきたかったと感じる演題もあったことから、今後検討していただくこともできるのではないかと思います。

シンポジウムは、「人と病院、地域、法とのつながりとはざま〜ケアの可能性を探る〜」をテーマとして行われました。この中で私が深く考えさせられたのは、医療観察法による指定入院医療機関と刑務所内の障害者（身体、知的、精神）に関する2つの司法精神医療の現状に関する報告でした。

指定医療入院機関では、手厚いマンパワーによる濃厚な関わり、ゆったりとした療養環境、リハビリのための様々なプログラムなど、司法精神医療のみならず、日本で受けることのできる最高の精神科医療がそこでは提供されているという印象を受けました。特に身体的拘束が全く行われていないことや、対象行為の振り返りを看護師も行っているという報告から、看護の関わりが主体的に行われていることを感じました。

それとは反対に、刑務所では出所しても行く場所がない障害者が、窃盗や無銭飲食などの軽微な犯罪を意図的に繰

り返して戻ってくることで、出所する際には社会復帰への調整はほとんど行われず、わずかばかりの小遣いを持たされて社会へ出されてしまうこと、医療が必要な障害者も医療刑務所でなく、一般刑務所で服役し、受刑者が受刑者をケアしているといった現状が報告されました。

浅学な私は、司法精神医療をめぐるあまりにも格差のある実態を目の当たりにし、驚愕せざるを得ませんでした。このような問題に自分がどう関わっていけるのかということを考えさせられると同時に、今後重大な犯罪を行った方だけでなく、刑務所から出所する障害者の方にも社会復帰調整官による支援が行われる必要性を強く感じました。

近年、病床削減の必要性から、いわゆる「社会的入院」といわれる患者さんのための退院促進事業が各地で始まっています。静岡県でもすでにモデル事業がスタートしていますが、その中で「病棟の看護スタッフからの協力が得られにくい。」ということが問題になっていました。長い間、病棟の集団管理的な業務に慣れてきた看護師は、患者さんの退院後の生活をイメージし、それぞれの患者さんの必要に応じた働きかけをるところまで、意識を変えていくことが難しいのかもしれませんが。本学術集会は「変貌する地域社会における精神保健看護のゆくえ〜病院と地域ケアの重なりとすき間〜」をメインテーマとして開催されましたが、この変貌する地域社会において看護はどう変わっていかなければならないのか、また看護系教員は現場にどのように貢献できるかということ、深く考えさせられた学術集会となりました。

■教育活動委員会・東京女子医科大学看護学部精神看護学共催講演会

「精神保健看護における倫理」

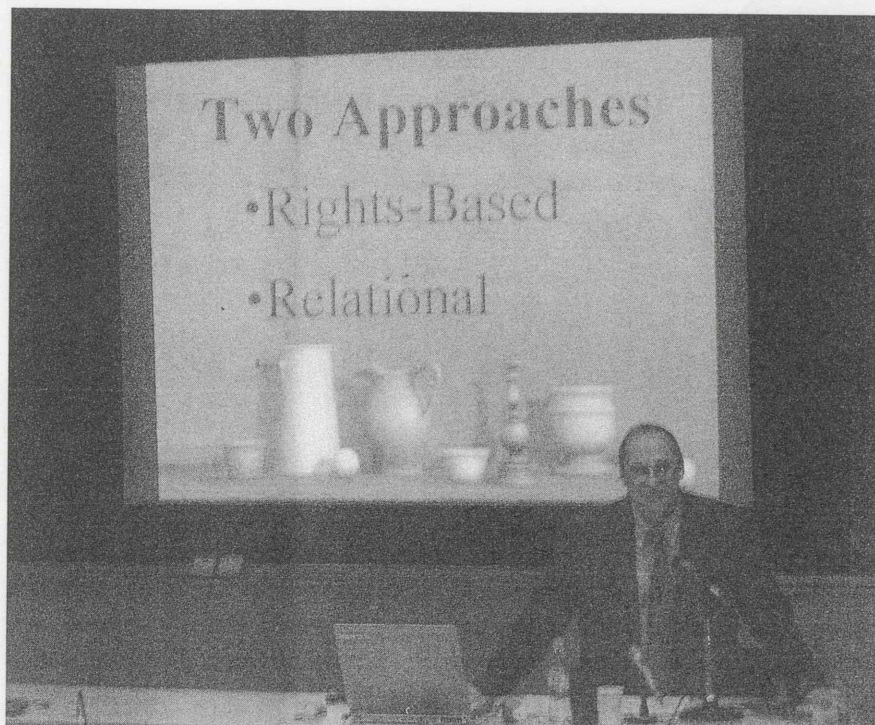
(エール大学 ダグラス・オルセン准教授) に参加して

東京都立松沢病院 高橋寛光

今回の講演会では、オルセン先生の経験を交えながら、西洋における倫理観の成り立ちから倫理の考え方、実践への適応など、幅広くかつ深く学ぶことができた。中でも質疑応答では、質問のあった事例について、講演で示された指針を用いて展開して頂き、より実践に即した形で理解を深めることができた。この指針は日々のケアから隔離・拘束といったさまざまな倫理的問題を包括しており、今後多くの臨床場面で活用できると考えられる。

また、倫理的問題に対する考え方について先生は、「する、しない、といった二者択一的な考え方から、問題に触れながら、継続して関わっていく考え方にシフトする必要がある」と繰り返し

説明されていた。これまで自分を含め、多くの看護師はこうした二元論的認識に捉われ、そのことが問題の解決をより困難にしていたように思う。先生の示された考えは、今後倫理的問題に対処する上で重要な指針となるだろう。今回の講演での学びを活かし、倫理的問題について「継続して」学んでいきたい。



平成18年度ワークショップ『精神障害者の回復への援助をどう教えるか』

—障害者自立支援法や診療報酬改正など、社会的な変化の背景をふまえて— (仮題)』

〈教育委員会主催〉

日時 平成19年3月25日(日)

午後1時半～

場所 広島大学 広仁会館

(霞キャンパス)

教育委員会主催の平成18年度ワークショップを、平成19年3月25日(日)午後1時半より、広島大学霞キャンパス内「広仁会館」にて開催いたします。テーマは『(仮題)精神障害者の回復への援助をどう教えるか—障害者自立支援法や診療報酬改正など、社会的な変化の背景をふまえて—』。講演者には慶應義塾大学の末安民生先生をお迎えする予定です。詳細、参加費については次回のニュースレター、ホームページ等を通じてご案内いたします。教育研究者はもちろん、臨床の看護職の皆様のご参加をお待ちしております。

第17回

日本精神保健看護学会総会・学術集会のお知らせ

第17回日本精神保健看護学会総会・学術集会は、神奈川県相模原市にある北里大学看護学部にて開催されることになりました。出口禎子大会長のもと、精神看護の基本をみつめることができるような大会をめざし、企画を練っております。

詳細につきましては、次号のニュースレターでお知らせいたします。また、日本精神保健看護学会のホームページ上にも、第17回大会の内容、演題発表および参加手続き等に関するインフォメーションを掲載する予定です。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

メインテーマ：「いま、改めて精神看護を考える」

開催日：平成19年6月9日（土）・10日（日）

会場：北里大学看護学部（神奈川県相模原市）



学術集会についてのお問い合わせ先（文書またはメールでお願い致します）

第17回日本精神保健看護学会総会・学術集会事務局

〒228-0829 神奈川県相模原市北里2-1-1

北里大学看護学内（担当：柴田）

E-mail gakkai@japmhn.jp

ホームページのお知らせ

日本精神保健看護学会のホームページ（URL:<http://www.japmhn.jp>）および学術集会のホームページが公開されております。学会情報のほか、学術集会の最新情報をご覧いただけます。また、学術集会の発表登録や参加申込みなどの手続きをホームページからもしていただけますのでご活用ください。なお、ホームページに関するご意見やお問い合わせは、日本精神保健看護学会事務局（e-Mail：japmhn-post@bunken.co.jp）までお願いいたします。

ニュースレター原稿募集

学会では、学会員が主催している精神看護に関連する活動を支援し、また学会員同士がより広く交流できるよう、ニュースレターへ掲載する原稿を学会員の方々から募集したいと思います。

学会員が主催している精神看護に関連した活動で、ニュースレターで広報してほしい活動について、その活動内容、主催者（お名前とご所属）、開催場所・時期、参加方法、連絡先についてお知らせください。また現在の精神医療や看護に関するご意見や、今、直面している現場の問題、あるいは日頃から気になっていることなど、学会員の方々とは共有したい内容についての記事をお送りください。編集委員会で検討させて頂いて、ニュースレターに掲載したいと考えております。お原稿お待ちしております。

お問い合わせ先 日本精神保健看護学会編集委員会（荻野）

メールアドレス mogino@iuhw.ac.jp

TEL 0465-21-6649

The Japan Academy of
Psychiatric and
Mental Health Nursing
*News
letter*

編集後記

▼第6期役員選挙が行われ、新理事の体制が整いました。今回は、新理事長の挨拶を掲載させていただきました。▼すでに新理事の活動も始まっています。教育活動委員会では東京女子医科大学看護学部精神看護学と共催して講演会を行いました。また次回の学術集会の企画委員会も動き出しています。今期から委員会活動にホームページ、広報の活動も加えました。▼会員の皆様へさらに充実した学会活動を提供していきたいと考えております。皆様からもぜひ、ご要望やご意見をお寄せください。

編集委員

萱間真美 若狭紅子 佐久間えりか 荻野雅